

わたしたちがえがく 地球の未来

フューチャー・アース

—持続可能な地球社会へ向けて—



地球環境問題は公害問題とは異なり、わたしたちが被害者であると同時に加害者でもあることが多いことをご存知ですか？ 地球温暖化や生物多様性の損失などをそのまま放置すると、わたしたちの経済活動や社会、文化にまで悪影響が及ぶかもしれません。そして、その影響は世代を超えて続く可能性があります。こうした問題を解決するために、市民・行政・産業界・研究者が一緒になって、日本が取り組むべき107の研究課題と10のテーマを選びました。これらの研究課題には、新たな科学技術を必要とするものだけでなく、人々の価値観の違いを乗り越えなければならないもの、一人ひとりの意識や行動の変革が求められるものまでさまざまあります。これらの研究課題を題材にして、みなさんと一緒に、持続可能な地球の未来をえがきましょう。

入場無料(定員200名)
高校生、大学生の参加を歓迎します!

●参加申込方法

お名前・ご連絡先を下記までお知らせください。
※インターネットを使ったストリーミング放送による中継を行います。
予めご了承の上お申込ください。

総合地球環境学研究所

電話 075-707-2265(平日8:30-17:00)

Web

http://www.chikyu.ac.jp/future_earth/0204

メール

yamashita@chikyu.ac.jp



●基調講演

「宇宙の地球人としての
わたしたち」



毛利 衛氏

日本科学未来館館長・宇宙飛行士

あなたがえらぶ 研究課題



来場者の
皆さんによる
投票コーナー

地球環境問題を解決するために、あなたはどんな研究が必要だと思いますか？ 地球温暖化などの課題について、来場者の皆さんに投票してもらいます!

JSRA2016

10テーマの紹介
パネルディスカッション



持続可能な地球社会に向けて、日本が取り組むべき研究課題とは？ 10のテーマを紹介するとともに、パネルディスカッションでは皆さんの投票結果を発表します。

日時

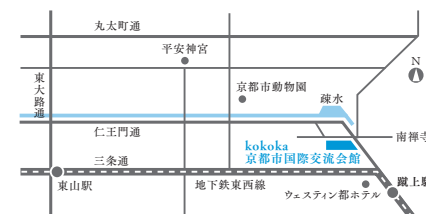
2017年2月4日(土) 13:00-16:30

場所

京都市国際交流会館 イベントホール

〒606-8536 京都市左京区栗田口鳥居町2番地の1 <http://www.kcif.or.jp>
交通: 市バス5・100系統「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車 徒歩10分/地下鉄東西線「蹴上駅」下車 徒歩6分

主催 大学共同利用法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所
事務局 総合地球環境学研究所 研究基盤国際センター 〒603-8047 京都市北区上賀茂本山457-4 TEL: 075-707-2265



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
Research Institute for Humanity and Nature

わたしたちがえがく 地球の未来

フューチャー・アース

—持続可能な地球社会へ向けて—

Future Earth とは

Future Earth (フューチャー・アース)とは、持続可能な地球環境に向けての国際的な共同研究構想です。世界中の多様な分野の研究者が、ダイナミックな地球の理解・地球規模の持続可能な発展・持続可能な地球社会への転換という3つのテーマで研究を進め、さまざまなステークホルダー(行政、産業界、メディア、市民団体など)と連携しながら社会の転換を目指すもので、2015年より本格的な活動が始まっています。

[プログラム] 司会 林 憲吾 (総合地球環境学研究所 センター研究推進支援員)

開会挨拶 13:00-13:10 安成 哲三 (総合地球環境学研究所 所長)

● ストリーミング中継あり 中継 13:50-16:30

当日、会場の模様をYouTube Liveで動画配信します。
http://www.chikyu.ac.jp/future_earth/0204

I 基調講演 13:10-13:50

「宇宙の地球人としてのわたしたち」 毛利 衛氏 (日本科学未来館館長・宇宙飛行士)



II あなたがえらぶ研究課題 来場者の皆さんによる投票コーナー 13:50-14:20

地球環境問題を解決するために、あなたはどんな研究が必要だと思いますか？ここでは来場者の皆さんに、地球温暖化などの問題について、どの研究課題が重要だと思うかその場で投票を行っていただきます。集計結果はパネルディスカッションにて発表します。お楽しみに！

III JSRA2016 10テーマの紹介 14:35-15:30

持続可能な地球社会に向けて、日本はこれからどのような研究に取り組んでいくべきでしょうか？「日本における戦略的研究アジェンダ」(Japan Strategic Research Agenda; JSRA)では、市民・行政・産業界・研究者からインタビューやアンケートによって集めた数多くの研究課題の中から、日本が優先して取り組むべきものをワークショップを通じて選び出しました。ここでは、ワークショップの参加メンバーがJSRAの10のテーマについて紹介します。

登壇者：梅津千恵子(京都大学大学院農学研究科 教授) / 伊藤 真之(神戸大学大学院人間発達環境学研究所 教授) / 森 宏一郎(滋賀大学国際センター 教授) / 大西 有子(総合地球環境学研究所 助教) / 奥田 昇(総合地球環境学研究所 准教授) / 大塚 健司(日本貿易振興機構アジア経済研究所 主任研究員) / 杉山 昌広(東京大学政策ビジョン研究センター 講師) / 西條 辰義(高知工科大学経済・マネジメント学群 教授 / 総合地球環境学研究所 客員教授) / 青柳もどり(国立環境研究所社会環境システム研究センター 環境計画研究室長) / 加納 圭(滋賀大学教育学部 准教授 / 一般社団法人社会対話技術研究所)

パネルディスカッション 15:30-16:20

「みんなでえらぶ研究課題 —さまざまな視点で環境問題を考える—」

来場者の皆さんによる投票コーナーの集計結果を発表！

西村 武司 (総合地球環境学研究所 センター研究員)

持続可能な地球社会を実現するためには、将来世代を見据えて複雑な課題に取り組んでいく必要があります。ここでは、投票結果を基にして、市民・行政・産業界・研究者といったさまざまな立場にあるわたしたちが、地球人としてお互いの視点を理解し合いながら、地球環境問題をどのように解決していくべきかを議論します。

パネリスト

江守 正多 (国立環境研究所地球環境研究センター 気候変動リスク評価研究室長)

東梅 貞義 (公益財団法人 WWF ジャパン 自然保護室長)

田浦 健朗 (特定非営利活動法人 気候ネットワーク 事務局長)

田中 幹人 (早稲田大学政治経済学術院 准教授 / 一般社団法人サイエンス・メディア・センター リサーチ・マネージャー)

津田 博司 (科学技術振興機構 社会技術研究開発センター 企画運営室 室長)

大西 有子 (総合地球環境学研究所 助教)

開会挨拶 16:20-16:30 谷口 真人 (総合地球環境学研究所 教授)



大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所
Research Institute for Humanity and Nature